

複合フローリングの施工について

1. 下地調整

- ・ 床下地は、清潔で、乾燥して、平坦で、構造的に健全であることが必須条件です。

- ・ 下地処理. ・ 下地材には 12mm 厚以上の耐水合板または特類の構造用合板をご使用下さい。

- ・ 床下地とフローリング板材の両方の含水率を必ずチェックしてください。含水率が高い場合は、防湿フィルム（防湿シート）の設置が必要になる場合があります。これを怠ると、床鳴りやきしみ、クラック（割れ）の原因となります。含水率は 12%以内にして下さい。

- ・ 下地の不陸（平らでないこと）を確認します。

2. 適切な接着剤の選択

- ・ ウレタン系接着剤 が現代の標準です。柔軟性が非常に高く、優れた接着強度を持ち、湿気や温度変化に強い特性があります。木材の反りや変形を引き起こす可能性のある水溶性の接着剤は避けてください。

- ・ 室内の空気質を良くするために、「低 VOC」や「ゼロ VOC」と表示された接着剤を探してください。こうした製品は接着剤の臭いが少なく、より環境に優しく、お子様やペット、高齢者、また臭いに敏感な方にも配慮されています。

3. 接着剤の塗布

- ・ 接着剤は板材側ではなく、床下地に塗布します。
- ・ 接着剤のオープンタイム（塗布後、作業可能な時間）に合わせて、一度に塗布する面積は小さな区画（約 1～2 平方メートル）に抑えてください。
- ・ 指定のクシ目ゴテを使用して、均一な筋を作ります。これにより、適切な塗布量が確保され、板材の間から接着剤がはみ出すのを防ぎます。下地全体に均一に接着剤を塗布し、床材のジョイント部に接着剤が溜まらないようにします。
- ・ 施工中は無理な叩きこみを避け、接合部は隙間を開けすぎず接着剤が溜まってしまいうため注意が必要です。
- ・ 長手方向は軽く寄せ、短手方向は 0.2mm 程度の隙間をあけて施工します。
- ・ 接着剤がフローリング材の表面についた場合は、直ちに乾いたウェスで拭き取ります。その際に水を使用しないでください。

- ・施工後には、表面保護のため全面を養生し、十分に乾燥するまで立ち入りを禁止してください。

4. フローリングの設置

5. 養生

- ・フローリング材の表面に傷がつかないよう、養生シートと合板またはダンボールを敷きます。

- ・ 接着剤のメーカーが指定する時間（通常 12～24 時間）は、床上を歩行しないでください。夏場は 12 時間、冬場は 24 時間程度、立ち入り禁止とします。この期間中に立ち入ると、床鳴りの原因となることがあります。

- ・ 重い家具や家電製品を移動させる前に、接着剤メーカー推奨の養生期間（多くの場合 24～72 時間）は完全に待つようにしてください。

- ・水拭き（濡れ雑巾を含む）は厳禁です。乾いた雑巾やモップを使用します。